

[野菜部門 令和6年度 参考となる研究成果]

事項名	県内で初めて確認されたいちごのアルタナリア属菌による果実腐敗症状		
ねらい	令和3年夏～秋に黒石市のハウスで栽培されているいちごの果実において、暗緑～灰黒色のビロード状のかびを伴う腐敗症状が発生した。病原を調査した結果、 <i>Alternaria alternata</i> によるものであることが明らかになったので、その特徴を示し、診断と防除対策上の参考に供する。		
内容	<p>1 症状 はじめに果実の表面が淡褐色にくぼみ、さらに2～3日後に暗緑～灰黒色のビロード状のかびに覆われ、腐敗する(写真1)。その後、果実はしぼんでミイラ化する(写真2)。病斑部には<i>Alternaria</i>属菌の孢子が観察される。果実以外に病斑はみられない。</p> <p>2 病原菌 (1) 腐敗部から単孢子分離した糸状菌をいちごの果実へ接種すると、「とちおとめ」を含む複数品種で腐敗症状がみられる(写真3)。 (2) PSA培地における菌の生育は10℃～35℃の範囲で認められ、最適温度は25℃であるが、27～30℃の高温でも旺盛に生育する。40℃以上では生育しない(図1)。 (3) PCA培地上での形態観察(写真4)、ITS、<i>GAPDH</i>、<i>RPB2</i>、<i>TEF</i>遺伝子の解析を行った結果、病原菌は<i>Alternaria alternata</i>と同定された。 (4) <i>Alternaria</i>属菌によるいちごの病害として、イチゴ黒斑病が報告されているが、本分離菌はイチゴ黒斑病感受性品種「盛岡16号」に黒斑症状を示さない(写真5)。</p> <p>3 防除対策 被害果は、早急に摘み取り処分する。</p>		
期待される効果	いちごの果実腐敗症状の原因を明らかにすることにより、早期発見が可能となり、被害拡大を防止することができる。		
利用上の注意事項	<p>1 判断が難しい場合には、試験研究機関又は病害虫防除所に確認してもらう。</p> <p>2 海外では<i>Alternaria fruit rot</i>としてアメリカ、イギリス、韓国、中国、台湾、マレーシア等で発生が確認されている。</p>		
問合せ先(電話番号)	農林総合研究所 病害虫管理部 (0172-52-4314)	対象地域 及び経営体	県内全域のいちご作付経営体
発表文献等	令和4～5年度 農林総合研究所試験成績概要集 北日本病害虫研究会報73号 第77回北日本病害虫研究発表会(発表予定)		

【根拠となった主要な試験結果】



写真1 ハウス栽培で発生したアルタナリア属菌による果実腐敗症状 (令和4年 青森農総研)  
 (注) 令和3年10月29日撮影



写真2 ミイラ化した腐敗果 (令和4年 青森農総研)



接種6日後



接種8日後

写真3 接種によるいちごの腐敗症状 (令和4年 青森農総研)

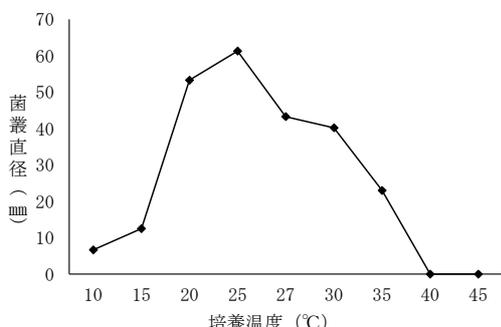


図1 各温度における分離菌の菌糸伸長 (令和4年 青森農総研)



写真4 分離菌の分生子 (令和4年 青森農総研)



イチゴ黒斑病菌接種

分離菌接種



黒斑病菌接種9日後

写真5 接種による「盛岡16号」の症状 (令和5年 青森農総研)

- (注) 1 分離菌接種では無症状、黒斑病菌接種では葉に黒斑を形成。  
 2 「盛岡16号」は東北農研から分譲、イチゴ黒斑病菌は道総研道南農試から分譲。